



### <来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
12/5 (月)	▲ 1,100	▲ 900	▲ 2,000	国庫短期証券 発行・償還 (3M)	補完供給 + 9,100 CP等買入 ▲ 700 社債等買入 ▲ 300	国債買入 + 13,100	米: ISM非製造業総合景況指数 欧: ECB総裁、講演 欧: ユーロ圏サービス業・総合PMI (11月)
12/6 (火)	▲ 1,000	トン	▲ 1,000				米: 貿易収支 (10月)
12/7 (水)	トン	▲ 9,000	▲ 9,000	国債発行・償還 (30年)	共通担保供給 ▲ 1,502		欧: GDP (3Q)
12/8 (木)	▲ 1,000	トン	▲ 1,000	国債発行・償還 (2年)			米: 新規失業保険申請件数 (12月3日終了週) 欧: ECB総裁、講演
12/9 (金)	トン	▲ 25,000	▲ 25,000	国債発行 (5年)			日: マネーストック (11月) 米: PPI (11月) 欧: ミシガン大学消費者マインド指数 (12月)

### <インターバンク>

日銀当座預金残高は週初493兆3,100億円から始まり国債買入オペ等により、30日に494兆1,100億円まで増加したものの、1日には2年債の発行等により488兆7,500億円、2日には税揚げ等により479兆4,300億円(速報)まで減少し越週した。

無担保コールON物は週を通して軟調な地合だった。週初、3日積み要因剥落によりビッドサイドの調達意欲の減退が見られ、同加重平均金利は前週末比△0.002%の△0.077%からスタートし、その後△0.079~△0.077%の狭いレンジで推移した。

ターム物は年内エンドとなる1W~3W物を中心に△0.078%~△0.068%のレンジで取引された。

来週の主な予定としては、海外で7日にユーロ圏GDP (3Q)、8日に新規失業保険申請件数 (12月3日終了週)、9日にミシガン大学消費者マインド指数 (12月) の公表等が挙げられる。

### [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.087 ~ 0.001
1M	△0.078 ~ 0.020
2M	△0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

### [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.005

### <レポ>

足許GC取引は週を通して△0.10%を下回る堅調な水準で推移した。輪番オペが実施された28日には△0.130%まで、翌日には警戒感から△0.135%まで低下した。その後は徐々に戻し、週末は国庫短期証券の入札が意識され△0.115~△0.100%程度で取引された。SC取引は2年435~442回債、5年146~154回債、10年350~367回債、20年179~182回債、30年65~76回債、40年13~15回債などに引合いが多く見られた。

### <CP>

今週の入札発行総額は約1兆6,800億円で、週間償還額(約1兆4400億円)を上回った。発行市場は、鉄鋼や機械を中心に幅広い業態での発行が見られ活況であった。発行残高は先週末時点の27兆5,141億円から1日時点で28兆2,875億円となり、今年8月以来の28兆円台に増加した。発行レートは0%から小幅なプラス圏での出会いが中心であった。

来週の週間償還額は、約5,500億円となっている。発行市場は、良好な発行環境を背景に、事業法人の税払いや賞与支払い等の一時的な資金需要に対するCPの利用も想定され、活況な展開を予想する。発行レートは、発行期間や発行残高等によりやや幅の広いレンジ圏での出会いを予想する。8日に、CP等買入れオペが4,000億円程度オファーされる予定となっている。【レンジ】CP3M (a-1+) 0.000%~0.005% 現先取引 △0.050%~0.000%

### <TDB>

12月2日の3M (1124回債) の入札は、最高落札利回り△0.1451% (前回債△0.1303%)、平均落札利回り△0.1660% (前回債△0.1310%) となった。来週は12月8日に6M (1125回債)、9日に3M (1126回債) の入札がある。